

# 西南学院高等学校講堂



賑やかな西新の大通りから北に折れた静かな低層の住宅地を抜ける道の正面にこの講堂は建つ。80年の風食にもまだその色が暖かな赤煉瓦と瑞々しい緑をたたえたツタが絡まる壁の前に立ち、これまでどれだけの生徒や大人たちがこの壁面を見上げて異国への憧れを抱いたことかと思いを馳せる。大正期を挟んで日本で活躍した建築家W.M.ウオーリズの煉瓦造り建築の代表作とされるこの建物には、2階に現役で使われている講堂があり、上層のギャラリーとホールを埋め尽くす生徒たちの聲

美歌が、建物じゅうに響きわたる。今は屋根が傷み内部の改造も進んでいるが、今後は高校敷地の移転に伴い、西南大学のシンボルとして修復保存されると聞いた。この講堂が安らげる環境が維持されていくことを切に望むものである。(審査委員 西山 徳明)



所在地：早良区西新三丁目13-1  
 所有者：学校法人西南学院  
 設計者：ウィリアム・メレル・ヴォーリズ  
 概要  
 用途：講堂

構造：木骨煉瓦造  
 階数：3階建  
 建築面積：368.73㎡  
 延床面積：951.76㎡  
 敷地面積：396.00㎡  
 完成年月：大正10年3月

# 株式会社サンコー本社屋



所在地：博多区博多駅南五丁目14-18  
 所有者：株式会社サンコー  
 設計者：新都市企画一級建築士事務所 代表 大坪克也  
 施工者：九州建設株式会社  
 概要  
 用途：事務所  
 構造：鉄骨造  
 階数：3階建  
 建築面積：606.86㎡  
 延床面積：1,067.95㎡  
 敷地面積：2,125.74㎡  
 完成年月：平成7年11月



向こう三軒両隣という言葉があるが、優れた町並みはまさにこれらの集積である。風土や捉え縛られながら、個性を抑えた規制や統一感の中に、それぞれの意匠に工夫を凝らした調和が保たれている事に魅力を感じるのである。そういう意味で、株式会社サンコーの本社屋は素材や形状が独創的で、社業をイメージしながらも、個性と公共の両立が図られており建築の自己主張から来る閉鎖性を感じない。先述の町並みの視点を重視し歩道との空間的、視覚的連続性は日本建築の軒下を暗示し、近隣の人々の談笑の場としての縁側の思想も垣間見ることが出来る。歩道沿いの隙間のある煉瓦塼と、沿わせたイタビカズラの取り合わせは、造形的にも素材的にも無難な処理ではあるが、煉瓦の赤とよく対比した緑であり、向こう三軒両隣へと将来の展開を暗示させ、十分都市景観に貢献していると評するに足る社屋である。

(審査委員 岡本 均)